

様式3 理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン2(7)

令和5年度 徳島医療福祉専門学校 作業療法学科  
教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常勤 教員	専任教員 一人あたり の在籍学 生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療 法士又は 作業療法 士数	助手			
作業療法 学科	人	人	人	人	人	6人	6人	人	39人	19人	
計	人	人	人	人	人	6人	6人	人	39人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
<input type="radio"/>	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野	指定規則 教育内容	担当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名(専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15	川野卓二	兼任
		文学	15	余郷裕次	兼任
		教育学	15	湯地宏樹	兼任
		社会学	15	平井昭夫	兼任
		物理学	15	和田英作	兼任
		生物学	15	山口 寛	兼任
		統計学	15	小柴俊彦	兼任
		英語	15	三浦 博	兼任
		医学英語	15	三浦 博	兼任
		保健学	15	三浦 哉	兼任
		体育学 講義	15	三浦 哉	兼任
		体育学 実習	15	三浦 哉	兼任
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	30	木戸玲子	兼任
		解剖学Ⅱ	30	木戸玲子	兼任
		解剖学Ⅲ	30	羽地達次	兼任
		生理学 講義	35	北岡和義	兼任
			10	江口 覚	兼任
		生理学 実習	23	北岡和義	兼任
		運動学 講義	15	三浦 哉	兼任
		運動学 実習	23	PT 教員	専任
	人開発達学	15	鈴木敏昭	兼任	
	疾病と傷害の成り立ち及び 回復過程の促進	病理学	9	伊井邦雄	兼任
			1	山下理子	兼任
			4	清水真祐子	兼任
			1	渡邊俊介	兼任
		臨床心理学	15	古川洋和	兼任
		一般臨床医学	15	伊井邦雄	兼任
		内科学	15	伊井邦雄	兼任
			8	木村 聡	兼任
			3	添木 武	兼任
			5	若槻哲三	兼任
			2	山田博胤	兼任
		整形外科	15	加藤真介	兼任
			30	松浦哲也	兼任
		神経内科学	30	和泉唯信	兼任
		精神医学	30	大蔵雅夫	兼任
		小児科学	7	須賀健一	兼任
			8	鈴江真史	兼任
		老年学	15	伊井邦雄	兼任
		予防作業療法学	11	濱 敬介	専任
			4	小林温子	専任

	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	保健医療福祉論Ⅰ	15	濱 敬介	専任
		保健医療福祉論Ⅱ	15	濱 敬介	専任
		リハビリテーション倫理学	15	濱 敬介	専任
		リハビリテーション医学	15	江西哲也	兼任
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	21	森口智恵美	専任
			5	濱 敬介	専任
			1	吉川瑞貴	専任
			2	後藤信吾	兼任
			1	圓井美貴子	兼任
		作業分析学	15	吉川瑞貴	専任
		基礎作業学実習	24	菅村拓也	専任
			15	坂東仁志	専任
			6	田村佳代	兼任
		作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	15	濱 敬介
	作業療法管理学Ⅱ		5	濱 敬介	専任
			4	菅村拓也	専任
	作業療法評価学	身体機能評価学Ⅰ	30	坂東仁志	専任
		身体機能評価学Ⅱ	15	菅村拓也	専任
		身体機能評価学Ⅲ	15	坂東仁志	専任
		精神機能評価学Ⅰ	15	森口智恵美	専任
		精神機能評価学Ⅱ	15	森口智恵美	専任
		生活機能評価学	15	小林温子	専任
	作業療法治療学	身体機能治療学Ⅰ	15	菅村拓也	専任
			35	坂東仁志	専任
		身体機能治療学Ⅱ	24	菅村拓也	専任
			7	濱 敬介	専任
		老年期作業治療学	15	小林温子	専任
			15	小林温子	専任
		精神機能治療学	30	森口智恵美	専任
		発達機能治療学	18	吉川瑞貴	専任
			8	森口智恵美	専任
			4	小林温子	専任
		高次脳機能治療学	15	濱 敬介	専任
		障害別生活活動支援論	30	小林温子	専任
		作業療法臨床技術論	15	坂東仁志	専任
			15	菅村拓也	専任
		義肢装具学	15	濱 敬介	専任
		臨床作業療法学	2	森口智恵美	専任
			2	坂東仁志	専任
			5	小林温子	専任
			2	濱 敬介	専任
			2	菅村拓也	専任
	2		吉川瑞貴	専任	
	総合作業療法学	8	森口智恵美	専任	

			8	坂東仁志	専任
			7	小林温子	専任
			7	濱 敬介	専任
			8	菅村拓也	専任
			7	吉川瑞貴	専任
	地域作業療法学	地域作業療法支援論	15	坂東仁志	専任
		生活環境論	15	小林温子	専任
		福祉用具適合論	15	小林温子	専任
		職業関連活動論	13	菅村拓也	専任
			2	森口智恵美	専任
	臨床実習	見学実習		菅村拓也	専任
		評価実習		小林温子	専任
		総合臨床実習		濱 敬介	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習	1年後期	作業療法概論	1年前期

			1 年後期
		作業分析学	1 年前期
		基礎作業学実習	1 年前期
		身体機能評価学 I	1 年前期 1 年後期
		身体機能評価学 II	1 年後期
		精神機能評価学 I	1 年後期
評価実習	2 年前期	作業療法概論	1 年前期 1 年後期
		作業分析学	1 年前期
		基礎作業学実習	1 年前期
		身体機能評価学 I	1 年前期 1 年後期
		身体機能評価学 II	1 年後期
		精神機能評価学 I	1 年後期
		生活環境論	1 年後期
		身体機能評価学 III	2 年前期
		精神機能評価学 II	2 年前期
		生活機能評価学	2 年前期
		身体機能治療学 I	2 年前期
		身体機能治療学 II	2 年前期
		老年期作業治療学	2 年前期
		精神機能治療学	2 年前期
		高次脳機能治療学	2 年前期
障害別生活活動支援論	2 年前期		
評価実習	2 年後期	作業療法概論	1 年前期 1 年後期
		作業分析学	1 年前期
		基礎作業学実習	1 年前期
		身体機能評価学 I	1 年前期 1 年後期
		身体機能評価学 II	1 年後期
		精神機能評価学 I	1 年後期
		生活環境論	1 年後期
		身体機能評価学 III	2 年前期
		精神機能評価学 II	2 年前期
		生活機能評価学	2 年前期
		身体機能治療学 I	2 年前期 2 年後期
		身体機能治療学 II	2 年前期 2 年後期
		老年期作業治療学	2 年前期 2 年後期
		精神機能治療学	2 年前期

			2年後期
		高次脳機能治療学	2年前期
		障害別生活活動支援論	2年前期 2年後期
		作業療法管理学 I	2年後期
		作業療法臨床技術論	2年後期
		義肢装具学	2年後期
		地域作業療法支援論	2年後期
		福祉用具適合論	2年後期
総合臨床実習	3年前期	作業療法概論	1年前期 1年後期
		作業分析学	1年前期
		基礎作業学実習	1年前期
		身体機能評価学 I	1年前期 1年後期
		身体機能評価学 II	1年後期
		精神機能評価学 I	1年後期
		生活環境論	1年後期
		身体機能評価学 III	2年前期
		精神機能評価学 II	2年前期
		生活機能評価学	2年前期
		身体機能治療学 I	2年前期 2年後期
		身体機能治療学 II	2年前期 2年後期
		老年期作業治療学	2年前期 2年後期
		精神機能治療学	2年前期 2年後期
		高次脳機能治療学	2年前期
		障害別生活活動支援論	2年前期 2年後期
		作業療法管理学 I	2年後期
		作業療法臨床技術論	2年後期
		義肢装具学	2年後期
		地域作業療法支援論	2年後期
福祉用具適合論	2年後期		

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	徳島医療福祉専門学校 学校関係者評価委員会
委員名(委員長)	市川公雄
組織の開催頻度	1年に2回
組織の取り組み内容	・教職員による自己評価結果の分析 ・自己評価結果に対する報告書の作成
自己点検・評価結果の公表	HPで公表(URL: <a href="https://tokushima-iryuu.ac.jp/inform">https://tokushima-iryuu.ac.jp/inform</a> )

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報:シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教育課程編成委員会
	委員構成等	学校長、副校長、教務部長、理学療法学科長、作業療法学科長、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する職能団体の役職員 2 名、実務に関する知識・技術・技能について知見を有する関係施設の役職員 2 名
	改善の仕組みの実際	協議内容 (1)リハビリテーション医療業界における人材の専門性の動向 (2)国又は地域のリハビリテーション医療振興の方向性 (3)実務に必要な最新の知識・技術・技能 (4)教育課程の科目・単位数 (5)その他教育課程の編成に関連する事項 (6)委員会の実施について必要な事項 会議結果の活用 委員会の意見を尊重し教育課程の編成を行う 開催時期 8 月、3 月の年 2 回の開催を基準とする

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

令和 5 年度 学校関係者評価結果の活用状況(主なもの) 学業達成率の上昇の為に各学年における分析や対策といった取り組みの検討、社会・地域貢献を積極的に推進、 学生同士の交流、学年を超えたコミュニケーションの機会の強化 など
--